


# 読書推進運動


 公益社団法人  
**読書推進運動協議会**  
 〒101-0051  
 東京都千代田区神田神保町1-32  
 出版クラブビル6階  
 TEL 03(5244)5270  
 FAX 03(5244)5271  
 発行人 小塚 昌弘  
 編集人 片岡 伸子  
 定価 60円

No.634

- ★「読書週間」ポスター完成！(2頁)
- ★コロナ禍でのブックスタート(5頁)

会員の購読料は  
会費の中に含まれる



「読書週間」によせて

## 読書で「心の世界」を広げよう

公益社団法人 読書推進運動協議会 会長

野間省伸のまよしのぶ

秋の恒例行事である「読書週間」が、今年も10月27日からはじまります。新型コロナウイルスは「読書週間」にどのような影響をおよぼすでしょうか。

幸いなことに、公共図書館、学校図書館、書店などは感染対策を工夫したうえで活動や営業を再開し、春の第一波の流行時に比べると読書環境は改善してきているといえます。

おおぜいが集まっていたの行事・活動は慎重にしなければなりません。この機会により多くの方に本を手にとらせていただきたいと思います。

読書の動機は人さまざま、学校の勉強や仕事の資料

として読む本もあるでしょうし、楽しみで読むエンターテインメント小説の本などもあるでしょう。できればいままですんでいなかったジャンルの本や、知らなかった著者の本にも挑戦していただきたいものです。

図書館、学校図書館、書店のみならず、全国の読書推進運動に携わるみなさまには、そういった読者と本との新たな出会いをこれからも助けていただきたいと存じます。

そのための選書の一助として、私どもで毎年発行しております世代別のブックガイド「若い人に贈る読書のすすめ」や「敬老の日読書のすすめ」もぜひご活用ください。

「若い人に贈る読書のすすめ」は10代〜20代向けに「成

人・卒業―新たな一歩を踏み出したフレッシュなあなたにすすめる本」を24冊紹介しています。「敬老の日読書のすすめ」では中高年層に向けて「心ゆたかに生涯読書」にふさわしい本を取り上げました(同じく24冊)。

掲載されている図書は各道府県の読書推進運動協議会から推薦された書目のリストをもとに選び抜いたものです。2020年版リーフレットは既に配布が終了しておりますが、弊協議会のホームページからPDF版をダウンロードしてご利用いただけます。

このほかにも各団体がさまざまなブックガイドを提供しています。

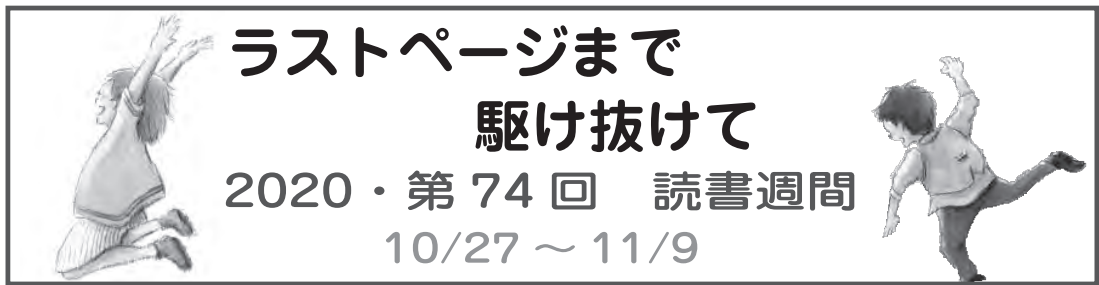
国の内外問わず、旅行に制約が多い昨今、Web上で観

光地を訪れるヴァーチャルツアーなるものも流行っているようですが、1冊の本の中にも大きな「世界」が詰まっています。

紀行や旅行ガイドを読めば、見知らぬ場所に心を飛ばすこともできます。歴史小説を読めば、過去の時代を追体験することもできます。ファンタジーやSF、ホラーなどを読めば、現実には存在しない異世界に遊ぶことすら可能です。

外出がままならないこの時期、秋の夜長に本を読むことで、「心の世界」を大きく広げてみてはいかがでしょうか。

最後になりましたが、今年「読書週間」の標語は「ラストページまで駆け抜けて」。まるでフィールドアスレチックのように、子どもたちが全身で本と戯れ遊ぶ姿を描いたポスターのイラストは、本を読むことへの期待感を感じさせる完成度の高い一枚になっています。ぜひ告知にご活用いただきたいと思います。



# ラストページまで 駆け抜けて

## 2020・第74回 読書週間

10/27 ~ 11/9



# ポスター完成しました!

図書館・書店・学校など、掲出にご協力ください

「2020 第74回・読書週間」のポスターが完成、9月中旬より順次、発送してまいります。

標語・イラスト募集に応募いただいた方、選考委員、デザインを担当したプラス・アイなど、すべての関係者に感謝いたします。

ポスターは6万2千枚を製作、全国の小・中・高校、公共図書館

書店などに配布、掲出をお願いいたします。出版社、新聞社、テレビ局などのマスコミ関係機関にも、「読書週間」趣旨書と運動普及活動の要請書を同封し送付する予定です。

今年の標語は、「ラストページまで駆け抜けて」です。入選者の野呂美由紀さん(中央社)からは、「物語に引きこまれラストまで駆け抜ける。早く走り抜けても、のんびり歩いても。本は自分のペースで読み進められます。道のりが困難でもゴールは待っていてくれます。あなたを待っている物語がきつとあると思います」と、作者のことばをいただきました。

ポスターイラストは、東京都杉並区にお住まいで、絵本作家のなかいかおりさんの作品。「思うように旅ができない世の中になってしまいました。本は、未知なる場所へ連れていってくれる、いちばん身近な移動手段かもしれません。今年もいつもと変わらず、素敵な本との出会いがありますように」と、イラストにこめた思いを紹介してくれました。



2020 第74回  
**読書週間**  
10月27日(火)~11月9日(月) [14日]

・イラストレーション／なかいかおり  
・標語／野呂美由紀  
・デザイン／有原文絵(プラス・アイ)

「2020 第74回・読書週間」のポスターが完成、9月中旬より順次、発送してまいります。出版社、新聞社、テレビ局などのマスコミ関係機関にも、「読書週間」趣旨書と運動普及活動の要請書を同封し送付する予定です。

今年の標語は、「ラストページまで駆け抜けて」です。入選者の野呂美由紀さん(中央社)からは、「物語に引きこまれラストまで駆け抜ける。早く走り抜けても、のんびり歩いても。本は自分のペースで読み進められます。道のりが困難でもゴールは待っていてくれます。あなたを待っている物語がきつとあると思います」と、作者のことばをいただきました。

ポスターイラストは、東京都杉並区にお住まいで、絵本作家のなかいかおりさんの作品。「思うように旅ができない世の中になってしまいました。本は、未知なる場所へ連れていってくれる、いちばん身近な移動手段かもしれません。今年もいつもと変わらず、素敵な本との出会いがありますように」と、イラストにこめた思いを紹介してくれました。

勢いよく駆け抜けていく子、ちよつとつまづいたけど前へ進む子、本をよじ登る子……偶然ですが、野呂さんの「作者のことば」とリンクしたイラストです。

一気読みせざるを得ない本特集、スポーツや青春など「駆け抜

ける」にふさわしい図書の特集ラストに衝撃の展開が待ち受けている本特集など、いろいろと楽しんでください。

本年度も、日本雑誌協会の特別なご協力をいただき、多くの出版社の雑誌に告知広告掲載のお願いをしました。電通の協力で新聞各紙やテレビ・ラジオの情報番組でも取りあげてもらおう、努めています。

読書推進運動協議会ホームページ (<http://www.dokusyo.or.jp>) では、ポスター・マークのデータ、このページにも使っているロゴデータ(各種フォントあり)のほか、図書館、書店での展示に活用いただけるポップ、しおり、ブックカバーのPDFデータを配布しています。

今年の読書週間は、新型コロナウイルス感染症への対策が求められるなかでの開催です。講演会や特別おはなし会など大きなイベントだけではなく、地域によっては通常のおはなし会も開催がむずかしい状況が続いており、読書推進の現場にいらつしやるみなさんのご苦労は大きいと存じます。ですが、いつもより「おうち時間」が多い今年の秋です。とびきり豊かな「読書の秋」を楽しみましょう!

■第106回全国図書館大会 和歌山大会 開催へ

大会初のオンライン開催！  
全国からの参加を期待

第106回となる今年の全国図書館大会の概要が発表された。

大会名称は「第106回 全国図書館大会 和歌山大会（主催：同実行委員会）」。テーマは「図書館の歩みとこれから―南葵（なんき）から新しい時代へ想いを繋げる―」。実行委員会では和歌山県内各施設での開催を準備していたが、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン大会に変更しての開催とした。参加者は11月20日（金）～30日（月）の間、全体会と各分科会を視聴できる。

全体会は、日本図書館協会理事長の小田光宏さんによる基調報告、慶應義塾大学名誉教授 美山良夫さんが講師の記念講演『理想』の図書館をもとめて 紀州徳川家当主たちの夢、明らかに、和歌山県立星林高等学校吹奏楽部による記念演奏「序曲『徳川頼貞』」。記念講演では、紀州徳川家15代当主で日本図書館協会総裁も務めた徳川頼倫が設立した「南葵文庫」の資料をもとに、バーチャル「南葵文庫」ツアーを実施。明治・大

正と、播磨期の図書館界でひとつの私設図書館が追いつ求めた「理想」を体験する。また、のちに南葵文庫内に設置された音楽室が発展した、音楽専門図書館「南葵音楽図書館」とその蔵書「南葵音楽文庫」についても紹介される予定。

予定されている分科会はずつぎのとおり。  
公共図書館「地域とつながり共に歩む公共図書館のチャレンジ―アメリカ図書館協会年次大会における発表3館の取り組み―」  
大学・短大・高専図書館①「ゲームを活用した情報リテラシー教育」  
大学・短大・高専図書館②「特別コレクション」をどう活用するか

学校図書館①②「人とつながる社会とつながる学校図書館」  
児童サービス「子供と本を結ぶ礎―児童サービスのあゆみと未来―」  
図書館情報学教育「これからの目録教育を考える」  
障害者サービス「読書バリアフリー法」と『障害者サービス』について

図書館の自由「図書館の自由を日常に活かす」

資料保存「やってみよう資料保存―実演・ワークショップ特集―」  
図書館災害対策「災害と図書館2 新型コロナウイルス対策と図書館災害」

多文化サービス「これからの多文化サービスの可能性を考える」  
認知症バリアフリー図書館特別対策チーム「誰もが安心して使える図書館に―認知症と向き合う図書館の実践―」  
図書館法制定70周年記念「図書館の使命を問う―図書館法の原点から図書館振興を考える―」

大会の参加費は2000円（オンライン大会視聴ID、資料代）。10月24日（土）まで、大会公式サイトより参加を申し込める。全国図書館大会に興味を持ちながらも、日程があわない、会場が遠いなどの理由で参加を見送ってきた人にも、このオンライン大会は参加しやすく、よいきっかけとなること

●第106回 全国図書館大会 和歌山大会 公式サイト

https://106th-wakayamatikai.info/

■「絵本ワールド」日程変更のお知らせ

今年の開催は中止、延期……  
でも、次回へ向けて始動！

新型コロナウイルス感染症のため、子どもの読書推進会議（事務局：読書推進運動協議会）が後援する「絵本ワールド」事業の日程に中止・変更がありましたので、ご報告します。

●5月3日（日）・4日（祝）開催予定だった「絵本ワールドinとくしま2020」は、2021年1月16日（土）・17日（日）に延期となりました。

●8月1日（土）・2日（日）開催予定だった「絵本ワールドinひょうご2020」は、中止となりました。

●8月15日（土）・16日（日）開催予定だった「絵本ワールドinいしがた」での昨年度「絵本ワールドinいしがた」のおはなし会



昨年度「絵本ワールドinいしがた」でのおはなし会

だった「絵本ワールドinふくしま2020」は、中止となりました。

●11月7日（土）・8日（日）開催予定だった「第21回 絵本ギャラリーin奈良」は、中止となりました。

●11月15日（日）開催予定だった「絵本ワールドinいしがた2020」は、2021年3月21日（日）（予定）に延期となりました。

以下の事業は、現在のところ開催予定ですが、今後の状況によっては変更が生じる場合がありますので、ご了承ください。

●10月18日（日）「絵本ワールドin」（東京都千代田区 城西国際大学 紀尾井町キャンパス）  
●11月2日（月）・3日（祝）「絵本ワールドin」（千葉県東金市 城西国際大学 東金キャンパス）  
●11月1日（日）「絵本ワールドin みえ2020」（三重県津市 高虎楽座）  
絵本・児童書と読者が出会う機会を提供する「絵本ワールド」。残念ながら中止になった地域でも、すでに次回の開催に向けて動き出しています。どうぞお楽しみに。

JBby巡回図書展 開催者募集

子どもの本で世界を知る、  
世界とつながる展示会

日本国際児童図書評議会(JBY)は、「世界のバリアフリー絵本展」に続き、「世界の子どもの本展」国際アンデルセン賞とIBBYオナーリスト2018」の巡回展示開催者を募集している。

この図書展は、2018年の国際児童図書評議会(IBBY)オナーリストに選ばれた世界61か国の優れた児童書と、国際アンデルセン賞・作家賞の角野栄子さん、画家賞のイゴリ・オレイニコフさん(ロシア)の作品で構成された約200冊のセット。1冊ごとのキャプション、解説パネル、閲覧



前年度の巡回展示会場の様子  
(奈良県立図書館にて)

用の日本語版カタログなどあわせて、開催者に貸し出される。貸出期間や費用など、貸出条件はJBbyホームページで確認できる。開催者の事情により、半分の量での分割貸出も可能という。

JBbyでは、「外出の機会が減っているいまだからこそ、身近な地元で、本を通して世界をめぐる旅を楽しみませんか?さまざまに言語の原書を手にとり、重なる体験になるでしょう」と、応募を呼びかけている。

また、JBbyは今年3月に開催予定だった「子どもの本の日 フェスティバル」で企画していた図書展「となりの国への扉」日中韓共同プロジェクトと絵本作家からのメッセージ」を9月1日(火)〜12月25日(金)の期間、東京都千代田区の出版クラブビル3Fライブラリーで開催している。「日中韓共同プロジェクト」は日本(JBY)、中国(CBBY)、韓国(KBBY)が、子どもたちに世界のいろいろな国の文化を知ってもら



韓国・中国の絵本作家のメッセージも  
展示される「となりの国への扉」展

いたい、とくにおとなりの子どもたちとは理解しあつてほしいの願いを込めて、ひとつのテーマにそつて5冊ずつ自国の絵本を推薦し、たがいの国で紹介しあう取組。第1回となる今年のテーマは「環境」。プロジェクトで選ばれた15冊の本とともに、前期(〜11月4日)は『あめだま』のペクヒナさん、『はしれ、トト!』のチョンヨンさんほか、韓国の絵本作家11人の絵本83冊とメッセージパネルを、後期(11月5日〜)は中国の絵本作家の作品とメッセージパネルが展示される。入場は無料。  
●JBbyホームページ  
<https://jby.org/>  
日中韓共同プロジェクトで選ばれた15冊の絵本リストも、掲載されています。

国際子ども図書館 開館20周年記念

絵本作家と絵本で  
平成をふり返る展示会

国立国会図書館 国際子ども図書館(東京都台東区)では、9月29日(火)から12月27日(日)の期間、国際子ども図書館開館20周年記念展示会「平成を彩った絵本作家たち」を、同館レナガ棟3階本のミュージアムで開催する。入場は無料。

この展示会では、平成に活躍した日本の絵本作家35名を、それぞれの作家が生み出した平成の絵本とともに紹介し、個性豊かな約200点の絵本から、平成という時代をふり返る。  
出展作家は、林明子さん、駒形



展示会のチラシ

克己さん、スズキコジさん、荒井良二さん、なかやみわさん、三浦太郎さん、かがくいひろしさん、長谷川義史さん、鈴木のりたけさん、tupera tuperaさん、ミロコマチコさん、ヨシタケシンスケさんなど。

あわせて、関連資料を用いた小展示が、同館アーチ棟2階の児童書研究資料室で開催される。展示期間中には、関連イベントの開催も予定されている。イベントの詳細や参加方法は決まりしだい、順次国際子ども図書館のホームページで紹介される。

また、諸事情により開催期間や予定が変更になる場合もあるのので、来館を予定している方は、最新情報をホームページで確認することをおすすめします。

●国立国会図書館  
国際子ども図書館ホームページ  
<https://www.kodomo.go.jp/>  
(開館スケジュールも確認できます)

■コロナ禍でのブックスタート

# 「三密」回避、ソーシャルディスタンス確保で 赤ちゃんと保護者にあたためたい時間を

NPOブックスタート事務局長 小林 浩子

## ブックスタート20周年

2020年は「子ども読書年」から20年。ブックスタートも20周年をむかえ各種事業を予定していましたが、コロナ禍で中止や延期に。各地のブックスタートも乳幼児健診会場での感染症対策に伴い、通常の実施がむずかしくなりました。



コロナ禍以前のブックスタート会場の様子  
(©NPOブックスタート)

ブックスタートはたんなる絵本の配付事業ではなく、読みきかせの体験とともに絵本を手渡すことが大切です。赤ちゃんの様子を見た保護者に、家でもやってみよ

と思うてもらうためです。また、地域の人が子育てを応援していることを伝える場でもあるのです。

この趣旨を損なわないために各自治体は現在どのように取り組んでいるでしょうか。約半年間の様子からご紹介します。

### 赤ちゃんと保護者のために

ブックスタートが実施できない、ほかの地域ではどうしている？という自治体からの問いあわせが3月に入ったころから急激に増えてきました。こんなときこそ赤ちゃんと保護者に絵本のひとときを届けたいと相談を受けても、支援組織として具体的にお伝えできることはほとんどなく、もどかしさが募るばかりでした。

4月初旬のある日、東京都八丈町の図書館から届いた資料が目にとまりました。図書館が作成したブックスタート対象者へのおたよりです。4月のブックスタートで読みきかせができないお詫びに加え、プレゼントする絵本を読んで

あげてほしいこと、絵本は赤ちゃんが自由に楽しんでほしいこと、図書館が再開したらぜひ来てくださいな、というものでした。

読みきかせはできなくても、こうやって親子に寄りそうメッセージを伝えられる。全国の自治体にも参考にしてもらえたら――。早速、適宜カスタマイズできる文面のフオーマットを作成し自治体に案内すると、ゆるキャラなども添えた各地域のおたより作成報告が続々と届きました。

さらに当法人ではブックスタートの説明動画「赤ちゃんといっしょにえほん」を作成しました。YouTubeで一般公開し、自治体が保護者向け資料などでも紹介・活用できるように案内しています。

### 読みきかせの再開と工夫

緊急事態宣言が解除され、5月中旬の健診再開とともにブックスタートが行われたのは鳥取市。感染症対策にあたつては、親子の来

所時間を指定し分散することで密を回避。座布団の代わりにマットを置いて毎回消毒。ボランティアさんの体調確認と当日の検温も徹底しました。

埼玉県三芳町では、親子との距離を確実に保つため、180cmの長机を活用しています。机の長辺両端に椅子を設置し、マスク着用で親子と対面。コロナ禍以前の会場写真を保護者に見せ、「赤ちゃんはまだ視力が弱いので、いつもはこれくらい近づけて絵本を読みますが、今日は離れて読みますね」と説明します。図書館員が、会場への誘導を含めさまざまなコミュニケーションを重ねて7月から再開し、9月にはボランティアさんも参加予定とのことです。

いずれも保護者からは「安心してブックスタートを受けられた」「外出は最小限にしていたが行ってよかった」「とても楽しかった」と喜んでいただけそうです。

### 赤ちゃんが教えてくれた

8月末の現在も状況は落ち着かず、読みきかせの再開ができない地域は多くあります。しかし、各自治体ともそれぞれの状況や考え方に基づいて、模索と試行錯誤を続けています。



埼玉県三芳町では、充分な距離をとってブックスタートを実施

今回あらためて気づいたことがあります。「親子に読みきかせを楽しんでもらえず絵本だけ手渡すのは、ブックスタートの趣旨にあわない。どうしても読みきかせができるだろうか」という自治体の問いあわせが多かったこと。推進組織として20年間説明してきた事業の趣旨が深く理解されていたのです。

でもそれは、赤ちゃんが教えてくれたこと。絵本をひらいた瞬間のあの笑顔が、全国でブックスタートに携わる一人ひとりの胸に刻まれ、事業の土台を耕してきたのでしょ。

20周年イベントの開催以上に豊かたしかな手応えを感じながら、今後も各方面とつそう連携しつつ全国の事業充実に努めたいと肝に銘じました。



### 優良読書グループの歩み (9)

2019年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。  
(順不同)

#### おはなしの会

「やぎなみ」

代表者 湯浅眞智子

徳島県海部郡牟岐町

〈推薦〉  
徳島県読書振興協議会

おはなしの会「やぎなみ」は、1995年4月、牟岐町海の総合文化センターに併設された牟岐町立図書館の開館にあわせて発足しました。

25年目をむかえた今年、全国優良読書グループ表彰をいただきましたことをうれしく思うとともに、今後ががんばるようにとの応援だと受けとめています。

あらためて記録誌『波あと』を開いてみますと、第1回目の参加人数は50人という記録に驚くとともに、「私たちの町に図書館を」という長年の夢がかなった喜びも含まれていたと思います。

現在の活動内容は、月2回土曜日、10時30分から11時まで館内絵

本コーナーで開いています。

おはなし会の形も少しずつ変化しています。春、れんげ畑まで足をのびし、野外おはなし会を実施。夏、夏休み最後の土曜日に開館時間を延長していただき「ちよつぴり怖い話」に挑戦。秋、町の文化祭に参加、昔話をたくさん語る。冬、大型絵本、エプロンシアター、手づくりペープサートが活躍。クリスマスを彩ります。

14年前から月1回、子育て支援「あそびの広場」で乳児対象の赤ちゃん絵本を紹介、また、小学校の朝読タイムにあわせて15分間、各学年の教室まで出かけていくなど、館内だけでなく機会が増えていきます。

うれしい出会いもありました。いつものおはなし会終了後、ひとりの男の子が「読んであげる」と1冊の本を広げました。「がたごと」がたごと、「おきやくがのり」ます。ぞろぞろ。ぞろぞろ。ペーペーを繰るタイミングもびつたりです。大好きな絵本をまるごと、そ

らんどしているのです。物語のなかに遊ぶ楽しさが素直に伝わります。そのとき私は、聞く心地よさを体験しました。思い出に残るシーンです。

ときどき、「読むのはむずかしいです。どのように工夫していますか」とたずねられます。選書をするときからおはなし会にははじまつています。読み手が心地よいのもだいじです。聞くのも好きというのもあわせて、1冊選びたいと思います。

これからも絵本コーナーからはじまった、「なんだか楽しいな」を続けていきたいと考えています。

#### さんびきのこぶた

代表者 笹藤 清美

大分県豊後大野市

〈推薦〉  
大分県読書推進運動協議会

三重町立図書館(現・豊後大野市立図書館)で、就学前の子ども

対象に「おはなしのへや」があり、参加していたおかあさんたちがときどき本を読んだり、簡単な人形劇をして、手伝っていました。そのなかの有志が「自分たちでやろ

う」と手探りのなか、試行錯誤しながら作品づくりをはじめ、最初に作ったのが「さんびきのこぶた」で、それをグループ名にしました。今年で30年になります。

はじめは人形劇だけでしたが、ペープサート、エプロンシアター、パネルシアターと作品づくりの幅が広がりました。ブラックシアターは色使いがむずかしいですが、はじめて見る人が多く、「わあ、きれい」という声を聞くと、作りがいがあります。作品数も多くなり、一部ですが、貸出もしています。

現在、6名で週1回集まって活動しています。長く続けていると、メンバーの家庭環境も変化し、参加できる人数が少ないときもありました。一年以上かかって仕上げた作品もあります。メンバー同士の理解があり、無理をせずできる人ができることをモットーにやってきたのが、長く続けられたことだと思っています。

公演は図書館が主でしたが、幼稚園、保育園から依頼がくるようになり、人形劇の舞台もコンパクトに持ち運べるようになりました。いまでは子育て支援グループ、小学校、高齢者施設など、年齢層も広がり、大型絵本や紙芝居などを取

り入れてプログラム作りをしています。『にんじんだいこんぼう』の人形劇の最後に本物の葉つき野菜を登場させます。これは親子に好評です。

公演を見た人から、おもしろかった、あたたかい気持ちになったなど、感想をいただいたり、子どもたちのいきいきとした表情や笑顔を見ると、とても励みになり支えになっていきます。

生で人形劇を見る機会が少ない地域です。メンバーも齢を重ねてきましたが、少しでも長く、子どもたちに笑顔と感動を届けられるよう、自分たちも楽しみながら作品づくりをしていきたいと思えます。



人形、舞台にも工夫をこらして子どもたちに笑顔と感動を

■「日本YA作家クラブ」がニューズレター発行

### 作家・翻訳家がYAのいまをみずから紹介!

ヤングアダルト図書(YA)をPRする作家と翻訳家の会「日本YA作家クラブ」がニューズレター第4号を8月に発行した。

今号は、会員作家による「作家・翻訳家のお気に入り調査隊」に片川優子さん(作家)と野沢佳織さん(翻訳家)が登場。「YA読書応援団!」のコーナーでは、梨原アリエさん作家が、コロナ時代のYA読書について紹介している。

ニューズレターの対象は、子ども

もや若い人たちがYA書籍にふれる環境を整備できる立場にいる人(公共図書館・学校図書館スタッフ、教育・福祉関係者、書店員など)と、その他購読を希望する機関と個人。ニューズレターはA3版画面刷りで、購読には、カンパ+送料込みの個別発送の読者登録をするか、配布ボランティアとして登録し、代表者として受け取り、



「日本YA作家クラブ」ニューズレター

地域や団体の3か所以上の読書活動の場に配布することが条件となる。日本YA作家クラブのウェブサイトで申込詳細が確認できる。また、同サイトでこれまでのニューズレターのバックナンバーPDFも閲覧できる。  
●日本YA作家クラブ  
ウェブサイトを  
<http://ya.inaa.net>

### 絵本画家の「絵本以外」の作品を 楽しむ展示

■ちひろ美術館・東京 展覧会

ちひろ美術館・東京(東京都練馬区)は、10月17日(土)〜2021年1月31日(日)の期間、展示「子ども」の心を見つめて いわさきちひろ「展」を開催する。

収束の見通しがつかない世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大が子ども心に落とす陰も案じられる現在、いわさきちひろが生涯願った子どものしあわせと平和を、絵ごとばから見つめ直す。

また、同期間にコレクション展

「絵本の世界を飛び出して」も開催。こちらは、エフゲーニー・ラチョフ、クヴィエタ・パツオウスカー、ユゼフ・ヴィルコン、荒井良二、ピンバ・ランドマンといった個性的な絵本画家の自由な発想による造形作品が、展示される。  
ちひろ美術館・東京では感染症対策として、来館前の注意事項とお願いをホームページで公開して



エフゲーニー・ラチョフ「走る鳥」1965年  
〔絵本の世界を飛び出して〕展示予定

入館料、開館スケジュールなどとおわせて、ご確認ください。  
●ちひろ美術館・東京  
ホームページ  
<https://chihiro.jp/tokyo/>

### 事務局報告(8月)

- ☆6日 機関紙「読書推進運動」633号 入稿
- 6日 「上野の森親子ブックフェスタ運営委員会」に出席
- ☆7日 機関紙「読書推進運動」633号 専了
- ☆17日 機関紙「読書推進運動」633号 出来
- 19日 新潟日報社と「絵本ワールドin いがた2020」日程について打ち合わせ
- ☆20日 原良郎氏の後任として、全国学校図書館協議会・黒木義博氏に野間読書推進賞選考委員を委嘱
- ☆24日 野間読書推進賞選考委員に9月14日(月)本選考会の案内を送付
- ☆25日 講談社社長室と読書推進運動協議会運営について打ち合わせ
- ☆25日 講談社社長室にて、野間省伸会長と読書推進運動協議会運営について打ち合わせ
- ☆25日 野間読書推進賞事業委員へ本年度の推薦者一覧、資料を送付
- 26日 「上野の森親子ブックフェスタ運営委員会」に出席
- ☆31日 野間読書推進賞事業委員より採点を受け取り

ラストページまで  
駆け抜けて

2020 第74回 読書週間  
10月27日~11月9日

### 編集部 & 事務局の ひとこと

●暑い暑い8月でした。東京では、まず新型コロナウイルス感染症情報について熱中症で倒れた人のニュースが報じられる日々が続きました。昨年暑かったのですが、それ以上に熱中症で搬送される方が多いと聞き、「これ、コロナのせいでも原因なんじゃないかしら?」と考えています。

●私の住んでいる自治体の図書館は「三密」を避けるため、館内で過ごす時間はひとりあたり2時間が目安、場合によっては入館人数の制限あり、閲覧席数もいつもより少なくなっています。感染症対策が講じられている安心感がある一方、時間がきたからちよと図書館いってこようという気はなかなかかわかず、どうしても読みたい資料があれば、取り置きのリクエストを出してから来館はかり。こういううはけつこう、多いのではないだろうか。

●熱中症で倒れた方たちの多くが、エアコンをつけていなかったといいますが、「我慢せず、エアコンをつけましょう」と言われても、自分ひとりのためにつけるのはもったいないと思う人もまた、多いと思います。私もそのひとりです。いつもの夏なら、涼を求めて図書館へいき、ゆっくり本を読んで心と身体を休めるといふ過ごし方がありますが、今年の東京ではハードルが高い……。そして熱中症を起こしてしまっ。そんな背景もあるのでは? だれでも自由に訪れることができ、好きな本を手にとり取りして自由に過ごせる図書館は、大切なライフラインです。(伸)